



第36回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 『無限ではない水』

[2014年7月29日]

『無限ではない水』 常滑市立南陵中学校 3年 岩川 晴香 (いわかわ はるか)

「もったいない、もったいない」これが祖母の口ぐせです。

私は、汗だくで部活から帰ってきた日に、浴槽にあふれるほどのお湯をためて、ざぶんとお風呂に入るのが大好きです。それを見た祖母はいつもこう言います。

「水をじゃぶじゃぶ使うともったいない。水というものは無限にあるわけじゃないんだから」

この言葉をきっかけに、本当に水は無限にないのか、なぜ無限にあるわけではないのかなど、水について深く考えてみることにしました。

水というものは、人類にとって最もありふれた液体であり、基本的な物質です。また人が生命を維持するには、必要不可欠であり、さまざまな産業活動にも不可欠な物質であると言えます。

今、日本は水の国と呼べるほど水に恵まれている国です。お風呂の水も飲料水も、どこでも蛇口をひねればおいしく飲むことのできる安全な水が出てくることは、日本が世界に自慢することのできる一つだと思えます。しかし今の日本の人々は、水というものの存在が当たり前になり過ぎていて、水の大切さが薄れてきていると感じます。

ある日、たまたま見ていた番組に私は衝撃を受けました。それは、子供たちがのどがかわいて向かった先が家の前にたまっていた泥水の場所だったということです。そこは、動物が水浴びをしたり、飲み水として利用している場所です。そんな泥水を子供たちが当たり前のように飲んでる光景に、驚きを隠すことができませんでした。今私たちが普通に使っている水ですが、世界には、多くの人が安全な飲料水を利用できずに暮らしています。その現実を考えると、とてもつらく悲しい現実だと実感しました。

このできごとをきっかけに私は、祖母の言っていたことがわかったような気がしました。この世の中に無限にあり続けるものはないのです。全てのものには限りがあり、いつかは無くなってしまいます。水だって、気候の異変で雨が降らなければ水は無くなってしまいます。

今まで存在してきた水を少しでも長くこれからの世代につなげていくことや、多くの人々が安全な水を飲める環境にするためには、数十人の力ではどうにもなりません。一人一人が十分に理解をし、全員が協力し、そして努力をしていかなければなりません。

私は、限られた資源である水に感謝し、水の節水に努めています。日常生活では、浴槽のお湯を前まではいっぱいに入れていたのを三分の二にし、シャワーを浴びる時や顔を洗ったり、うがいをする際はこまめに止めています。初めのうちは苦になることが多く、大変でしたが、長く続けていくうちに、自分は良いことをしているんだという実感や、満足感が得られました。私たちはまだ中学生。たくさんの大人に比べれば、大きな影響力はありません。しかし、こういった水の作文コンクールなどをきっかけに水について考える機会が多い中学生。そんな私たちだからできることも少なくはないと考えます。私たちや、私たちの周りから水を大切にしている活動を行っていけば、どんなに小さな活動でも、いずれは大人をもうならせるような大きな力や原動力になると信じています。技術的にも進んでいる日本がリードして、水源保持に努めていけば、きっと新しい世の中に生まれ変わっていくことでしょう。

今では祖母に、自分の水に対する気持ちを語っています。

関連コンテンツ

- ❖ [第36回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 受賞作文](#)
- ❖ [第36回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 最優秀賞 『水不足にならないために』](#)
- ❖ [第36回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 『無限ではない水』](#)
- ❖ [第36回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 『節水という二文字から』](#)

お問い合わせ

愛知県 地域振興部 土地水資源課
企画・調整グループ
電話：052-954-6118(ダイヤルイン)
E-mail: tochimizu@pref.aichi.lg.jp

[ページの先頭へ戻る](#)

[県機関の連絡先](#)

[個人情報の取扱い](#)

[Webページ作成方針](#)

[リンク方針](#)

[ネットあいちについて](#)

愛知県

Copyright © 2007-2015, Aichi Prefecture. All rights reserved.

**第36回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 『節水という二文字から』**

[2014年7月29日]

『節水という二文字から』 名古屋市立守山北中学校 3年 鈴木 日奈子 (すずき ひなこ)

「お姉ちゃん、この紙、なあに？」

弟が聞いてきた。弟が指差す先には、「節水」の二文字が書かれた紙がある。これは私が貼ったものだ。

蛇口をひねれば水が出る。それはこの国、日本では当たり前の事だ。のどが渇いたら蛇口をひねり、コップに水を注いで飲む。風呂をわかして湯につかり、シャワーで身体をきれいにする。花に水をやり、夏の暑い日には道路に水をまく。私達はふだん、たくさんの事に水を使っている。

先日、私の通う中学校に新しい音楽の先生がやってきた。その先生は以前、アフリカのジンバブエという所で音楽の先生をやっていたらしく、私達にジンバブエでの生活を教えてくれた。

ジンバブエでは、蛇口をひねっても、一週間に一回くらいしか水が出ないらしく、出る時に貯めておかないと、お風呂にも入れないそうだ。水が足りない時は、井戸までくみに行かなければならぬらしい。

先生はハイデンシティエリアという、お金の無い人達が住む所に住んでいたそうなのだが、そこでは基本的に水が出ない状態で、一ヶ月間全く水が出ないときもある。水がようやく来たかと思えば、濃い紅茶のような濁った色で、とても飲めたものではなかったそうだ。

先生はペットボトルの水を買って使っていたが、水を充分に買えない人達は、雨水や不衛生な水を頼るしかない。

しかしその不衛生な水の影響で、2008年のデータでは4000人が水質汚染による腸チフスやコレラなどという病気で死亡している。国の財政不足により、壊れた水道管や貯水タンクが整備されず、浄水されないまま水が届くせいである。

先生は、いかに自分が日本にいる時に、水の無駄使いをしたか思い知ったそうだ。そう考えると私達はとても贅沢な暮らしをしているな、と思った。

もし私が、アフリカのジンバブエで同じような生活をしたら、どうなるだろう。力が無い私は、井戸まで水をくみに行く事なんてできない。蛇口をひねれば水が出る、ボタンを押せば水が出る、そんな生活に慣れてしまっている。先生も、最初はたくさん水を使ってしまうために、水をくみに行くのにとっても苦労したそうだ。しかし、だんだんと水を使うコツを覚え、少ない水で生活できるようになったそうだ。

では私達にできる事は何だろう。それはまず、自分達から水の大切さを知る必要がある。だから私はあの張り紙を張ったのだ。1人1人が先生のように水を使うコツを覚え、節水をしていく事が大切なのだ。たとえば、歯みがきのときに、水を出しっぱなしにしたりしない事、お皿洗いや手洗いなど、さまざまな所で節水をする機会がある。私は今すぐジンバブエに行って井戸を掘ったり、インフラを整えたりすることはできない。だからまず、自分達が水を大切にしなければならない。

先日、弟が歯みがきをしている時、いつもは出しっぱなしにしている水を、ちゃんと止めてくれていた。私はそれを見て、とてもうれしくなった。

関連コンテンツ

- ❖ [第36回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 受賞作文](#)
- ❖ [第36回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 最優秀賞 『水不足にならないために』](#)
- ❖ [第36回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 『無限ではない水』](#)
- ❖ [第36回「全日本中学生水の作文コンクール」愛知県表彰 優秀賞 『節水という二文字から』](#)

お問い合わせ

愛知県 地域振興部 土地水資源課
企画・調整グループ
電話：052-954-6118(ダイヤルイン)
E-mail: tochimizu@pref.aichi.lg.jp

[ページの先頭へ戻る](#)

[県機関の連絡先](#)

[個人情報の取扱い](#)

[Webページ作成方針](#)

[リンク方針](#)

[ネットあいちについて](#)

愛知県

Copyright © 2007-2015, Aichi Prefecture. All rights reserved.

全日本中学生水の作文コンクール実績(愛知県分)

	応募状況								表彰数	
	応募 学校数	応募総数 編	性別		学年別				知事表彰 編	国の表彰 編
			男 名	女 名	1年 名	2年 名	3年 名	不明 名		
第1回 (昭和54年度)	12	349								入選 1
第2回 (昭和55年度)	16	113	30	83	46	22	35	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 6 11	入選 2
第3回 (昭和56年度)	28	439	164	275	191	129	119	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 18 23	入選 1
第4回 (昭和57年度)	26	335	127	208	78	166	91	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 10 15	入選 1
第5回 (昭和58年度)	26	254	86	168	58	101	95	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 6 11	入選 1
第6回 (昭和59年度)	31	598	217	381	288	121	189	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 10 15	公団総裁賞 入選 1 1
第7回 (昭和60年度)	30	574	219	355	245	184	145	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 10 15	入選 1
第8回 (昭和61年度)	30	320	112	208	112	123	85	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第9回 (昭和62年度)	25	916	409	507	401	384	131	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第10回 (昭和63年度)	25	704	291	413	239	150	315	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第11回 (平成元年度)	50	1,232	503	729	501	403	328	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 10 15	入選 2
第12回 (平成2年度)	52	1,148	518	630	440	400	308	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第13回 (平成3年度)	35	734	346	388	270	206	258	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第14回 (平成4年度)	36	383	135	248	139	143	101	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	全日本中学校 長会会長賞 1
第15回 (平成5年度)	33	988	444	544	191	391	406	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし

	応募状況								表彰数		
	応募 学校数	応募総数	性別		学年別				知事表彰	国の表彰	
			男	女	1年	2年	3年	不明			
第16回 (平成6年度)	35	883	358	525	259	390	234		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第17回 (平成7年度)	30	940	454	486	442	244	254		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第18回 (平成8年度)	28	300	124	176	97	155	48		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 4 9	入選 1
第19回 (平成9年度)	17	393	167	226	208	81	104		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第20回 (平成10年度)	25	347	139	208	166	79	102		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第21回 (平成11年度)	28	719	306	413	234	374	111		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 1
第22回 (平成12年度)	15	330	189	141	137	50	143		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第23回 (平成13年度)	13	222	105	117	88	53	81		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第24回 (平成14年度)	10	238	128	110	74	87	77		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 6 11	入選 1
第25回 (平成15年度)	16	518	262	256	17	330	171		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 3 6 10	該当なし
第26回 (平成16年度)	10	371	198	173	37	127	177	30	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	入選 2
第27回 (平成17年度)	13	430	-	-	178	144	104	4	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第28回 (平成18年度)	13	385	-	-	49	188	148		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし
第29回 (平成19年度)	11	530	-	-	128	77	325		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	優秀賞(中央審査会特別賞) 1
第30回 (平成20年度)	12	833	-	-	348	189	294	2	最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 4 5 10	該当なし

	応 募 状 況		性 別				学 年 別				表 彰 数	
	応 募 学 校 数	応 募 総 数	性 別		学 年 別				知 事 表 彰	国 の 表 彰		
			男	女	1 年	2 年	3 年	不 明				
第31回 (平成21年度)	13	385			84	222	79		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8	最優秀賞(国土 交通大臣賞) 1	
第32回 (平成22年度)	11	305			120	62	123		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8	該当なし	
第33回 (平成23年度)	19	620			238	140	242		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 6 9	入選 1	
第34回 (平成24年度)	17	165			87	55	23		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8	優秀賞(独立行政法 人水資源機構理事長 賞) 1 入選 1	
第35回 (平成25年度)	12	333			74	104	155		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8	該当なし	
第36回 (平成26年度)	11	258			119	46	93		最優秀賞 優秀賞 入選 計	1 2 5 8	該当なし	